

国民保養温泉地研究 1		
国民保養温泉地	公共的利用増進 特徴	
銀山温泉	延沢銀山遺跡散策コース管理事業	
	銀山温泉家並保存事業	
肘折温泉	従来からの湯治場としての機能と新たに健康の回復、増進といった健康づくりの場としての機能を統合した、保養・療養を目的とした中長期滞在型の温泉地を目指す。	
	山菜、きのこ、肘折かぶ等の伝承野菜等は大蔵村の特産物であり、「大蔵ならではの」の魅力ある観光資源である。	
鳴子温泉郷	鳴子温泉郷の地域の特性を生かし、歴史、文化、自然、食、産品、体験などと温泉利用の組み合わせを考えたプランを造成し、保養・休養・療養における滞在時の過ごし方の新しいスタイルを模索し提案していく。	
五頭温泉郷	従来からの保養休養地的な温泉地としての機能に、新たに健康をキーワードに健康づくりの機能を充実させた温泉地を目指す	
	温泉と地域の農産物を利用した健康食（薬膳料理を含む）の開発や遊歩道を活用したウォーキング及びノルディックウォークなどをセットにした2泊～3泊の健康増進プログラムの作成等を含むソフト面の整備を実施する。	
増富温泉	増富地区においては、過疎化が進行し、周辺自然景観の確保に資する自然・集落・文化等地域資源の管理能力や、経営資源の確保に資する従業員等の生活環境に懸念が生じている。このため、放射能泉の効能を活かした国民の健康増進機能の強化や都市農村交流の推進等、地域資源や経営資源の保全利用への試みが行われている。	
	健康科学大学と連携し、温泉浴と自然・農業作業療法等、自然の摂理に沿った心身の健康増進プログラム提供を実践するとともに、その効果について科学的な分析評価を行う	
梅ヶ島温泉郷	梅ヶ島温泉郷では、豊かな自然環境や美しい景観を保全するとともに、豊富に有する地域資源を活用することで、「新・湯治」（※1）のスタイルに合致した過ごし方を提供できる、短期から中期の滞在型の温泉郷としていくことを目指す。	
	一定期間の滞在看見込まれる層（ワーケーション、湯治客等）を対象とした宿泊プラン及びモデルコースを造成するとともに、それを紹介するガイドマップを作成する。	
南小国温泉郷	従来からの保養休養地的な温泉地としての機能に加え、南小国町民に対して健康をキーワードに健康づくりの機能をより充実させた温泉郷を目指す。	
	複数のトレッキングコース・ウォーキングコース・遊歩道において、コースならびに植生等の解説をより充実させ、自然への理解度を深めると共に自然環境の保全に努める。 医療機関と連携し、健康維持や健康増進をするための温泉利用プログラムの策定を検討する。	
湯布院温泉郷	温泉や自然をいかして、滞在しながら健康になれる温泉地づくりを進めるため、「クアオルト」という考え方を取り入れたプログラムを作っている。「クアオルト」とは、ドイツの言葉で、「療養地や健康保養地」という意味であり、湯布院のまちづくりを進めるなかで、ドイツへの視察旅行を行い、同地の考え方を取り入れたまちづくりを積極的に行った。	
	「クアージュゆふいん」は、温泉を活用したパーデゾーンと呼ばれるプールで、水中運動を行うことができる施設である。建設にあたっては、湯布院のまちづくりの基本方針であった「クアオルト」というドイツの気候性地形療法に基づく考え方を取り入れている。プールのほかにも、男女別のお風呂やトレーニングルームなどの様々な設備がある。	
鉄輪温泉、明礬温泉、柴石温泉	別府市では、平成31年4月1日施行で入湯税の引き上げ（施行日より5年間）を行った。引き上げによる増収の用途については、市の観光施策、温泉資源保護施策に充当するものであるが、「別府市入湯税の超過課税分の用途に関する審議会」において計画及び執行状況を年度ごとにチェックしている。	
	機能温泉浴 異なる泉質を組み合わせることで相乗効果を期待できる入浴方法で別府では10種類中7種類の泉質があることから、その多様性を活かした取り組みである。	